

第1回環境モニタリング委員会 議事要旨

開催年月日/会場	議事	出席委員（敬省略）	議事概要	
令和4年2月28日 Web会議（Teams）	①設立趣意書（案）、規約（案） ②委員長の選出 ③環境モニタリング委員会の経緯 ④令和3年度モニタリングの実施状況 ⑤令和4年度モニタリング計画（案）	阿部 學（日本猛禽類研究機構理事長） 池本 良子（金沢大学理工研究域 地球社会基盤学系教授） 大井 徹（石川県立大学生物資源環境学部 環境科学科教授） 田中 晋（富山大学名誉教授） 中田 政司（富山県中央植物園園長） 中村 浩二（石川県立自然史資料館館長） 南部 久男（元富山市科学博物館館長）	設立趣意書（案）、規約（案）	・設立趣意書（案）、規約（案） について了承する。
			委員長の選出	・中田委員の委員長選出について了承する。
			令和3年度モニタリングの 実施状況	・法面等整備地のモニタリングの確認種のうち、ノウサギの亜種について、亜種名は用いずに、ノウサギの種名で整理するとよい。 ・冬眠場所と産卵場所の往来を確保するような配慮ができると良い。 ・ヒキガエル類の調査では、調査を継続して、知見をより蓄積したうえで雑種の状況を判断する必要がある。令和3年度調査で実施していない範囲についても調査の実施の可能性を検討してもらいたい。
			資料4 令和4年度モニタ リング計画（案）	・富山県中央植物園で実施しているチョウジソウの保全は、挿し木の方法で大量に増殖を行い、植物園内で増やしていく計画である。
				・生態系典型性（陸域）の両生類の調査地点は、樹林に設定されているが、林の中を探すだけではサンショウウオ類は見つけにくい。産卵場所となる水辺を中心とした場所も調査地点にすると良い。
				・水質の喜三郎谷の出水時調査について、調査地点の配置を含めて今後の調査について検討が必要である。
				・昆虫のクビボソコガシラミズムシとドブシジミの調査は、移殖（移植）地点の調査に加えて、自生地や周辺を含めた広めの調査を実施していくと良い。 ・ダムが完成し、湛水域ができると、外来種等の魚類が放流されることがある。管理や対処の方法を考えていく必要がある。 ・動物、植物の外来種の問題を考えていく必要がある。 ・令和4年度モニタリング計画（案）について了承する。令和4年度の調査に向けて、各専門の委員と相談しながら適切に進めてもらいたい。